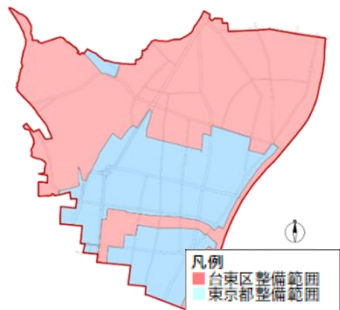


## まちづくりDXの推進について

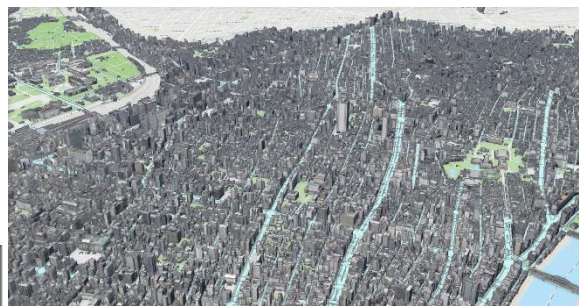
### 1 令和6年度の業務進捗

#### (1) 3D都市モデルの整備

本区の区域のうち、東京都の既整備範囲（約370ha）を除く区域（約640ha）について、国土交通省が示す国際標準仕様に基づくLOD2※にて整備を実施している。今後、国土交通省ホームページ等におけるオープンデータとして公開を予定している。



整備範囲図



3D都市モデル(LOD2)区内整備状況



LODの概念

【出典：国土交通省ホームページ】

※ LOD：Level Of Details の略で、3D都市モデルの詳細度を示す。  
LOD1は 建物の箱型モデルとして整備されるのに対し、  
LOD2は 建物の屋根形状が表現される。

#### (2) 3D都市モデルの活用

##### ①まちづくりのシミュレーション

整備された3D都市モデルを活用し、回遊・滞留空間の充実等に向けた道路空間再編や、歴史・文化資源と調和した街並み保全・修景のシミュレーション等を実施した。また、区職員自らが当該シミュレーションや都市課題の可視化・施策立案等ができるよう、職員向けの技術研修会を実施した。



街並み保全・修景のシミュレーション

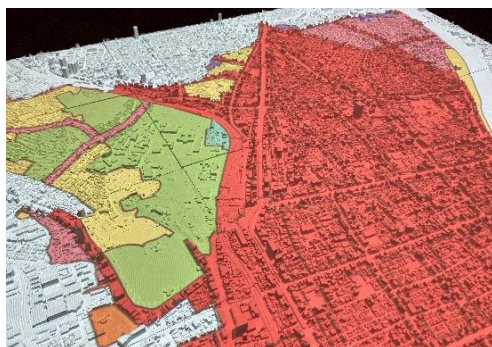


職員向け技術研修会の様子

## ②住民参加等の促進

区民・職員等の直感的な理解促進や、各種ワークショップでの活用等を目的に、3D都市モデルデータを活用し、3Dプリント模型の製作を実施した。また、区職員自らが都市計画情報やハザードマップ等の様々な情報を映像化し、模型に投影できるように、職員向けの技術研修会を実施した。

さらに、現実の模型とデジタル上の3D都市モデル空間を連動させ、模型を動かすことにより手軽にまちの将来像シミュレーションを行うことができるシステムを活用し、地域住民主体によるまちづくりワークショップを実施した。



3Dプリント模型への都市計画情報投影



ワークショップの様子（浅草地区）

## 2 令和7年度の主な取組み

### (1) 3D都市モデルの追加整備

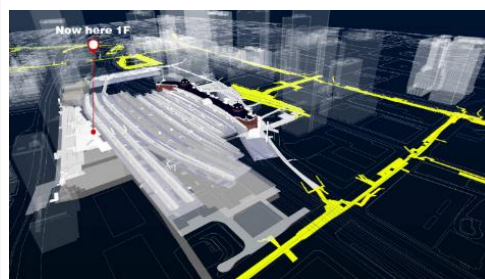
上野地区及び浅草地区における地下街の3D都市モデルを整備する。これにより、今年度整備した地上部の建物や道路・橋梁（ペDESTリアンデッキを含む）を含め、多層の空間における人流・空間整備等のシミュレーションを実施できる環境を整える。



上野地区の地下街整備範囲図



浅草地区の地下街整備範囲図

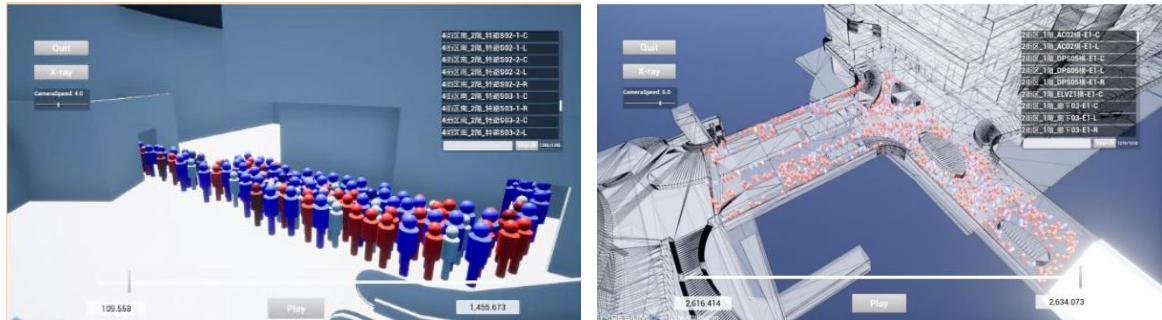


地下街の整備イメージ（事例：東京駅）  
【出典：国土交通省ホームページ】

## (2) 観光拠点における帰宅困難者の避難シミュレーション

上野地区及び浅草地区における地上部・地下街の3D都市モデルや人流データ等を活用し、帰宅困難者の避難シミュレーションを実施することで、災害時における混雑・渋滞が予想される箇所の可視化や対策案の検証を行う。

また、令和7年度に危機・災害対策課が実施予定の「台東区帰宅困難者対策推進業務」と連携し、地域の関係者と図上訓練を実施するなど、3D都市モデルを活用したイメージ共有や住民参加、効果的な計画立案等の基礎材料としていく。



避難シミュレーションイメージ（事例：港区）  
【出典：国土交通省ホームページ】

## (3) その他

引き続き、本区の各種業務・施策等の効果的な実施や住民参加・公民連携等を推進するため、様々な分野での3D都市モデルの活用や、多様なデータの蓄積・連携を進め、スマートシティの実現を図る。

## 3 予算額（案）

(1) 歳入 52,431 千円

- ① 令和6年度予算分：10,000 千円
- ② 令和7年度予算分：42,431 千円

(2) 歳出 105,359 千円

- ① 令和6年度予算分：20,000 千円（既定経費を活用し、令和7年度に繰越明許）
- ② 令和7年度予算分：85,359 千円

## 4 今後の予定

令和7年4月 委託業務発注